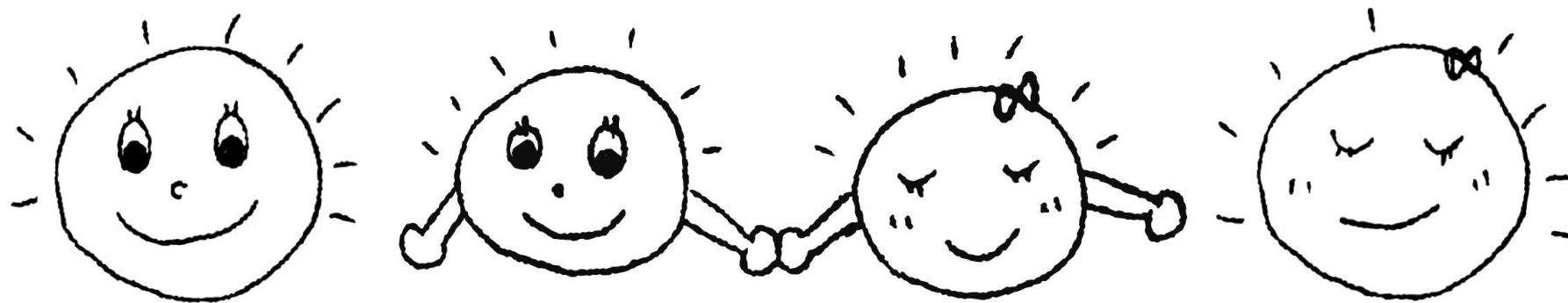


あなたのまちで やさしさをひろげるために ～思いやり・つながり・支えあう～



新型コロナウイルスから考えてみよう

はじめに

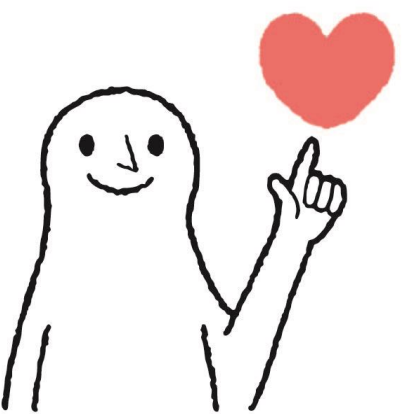
考えてみよう

新型コロナウイルス感染症が広がったことで、あなたの気持ちや生活で変わったことはありますか？

「家の中で一人であることが増えた」

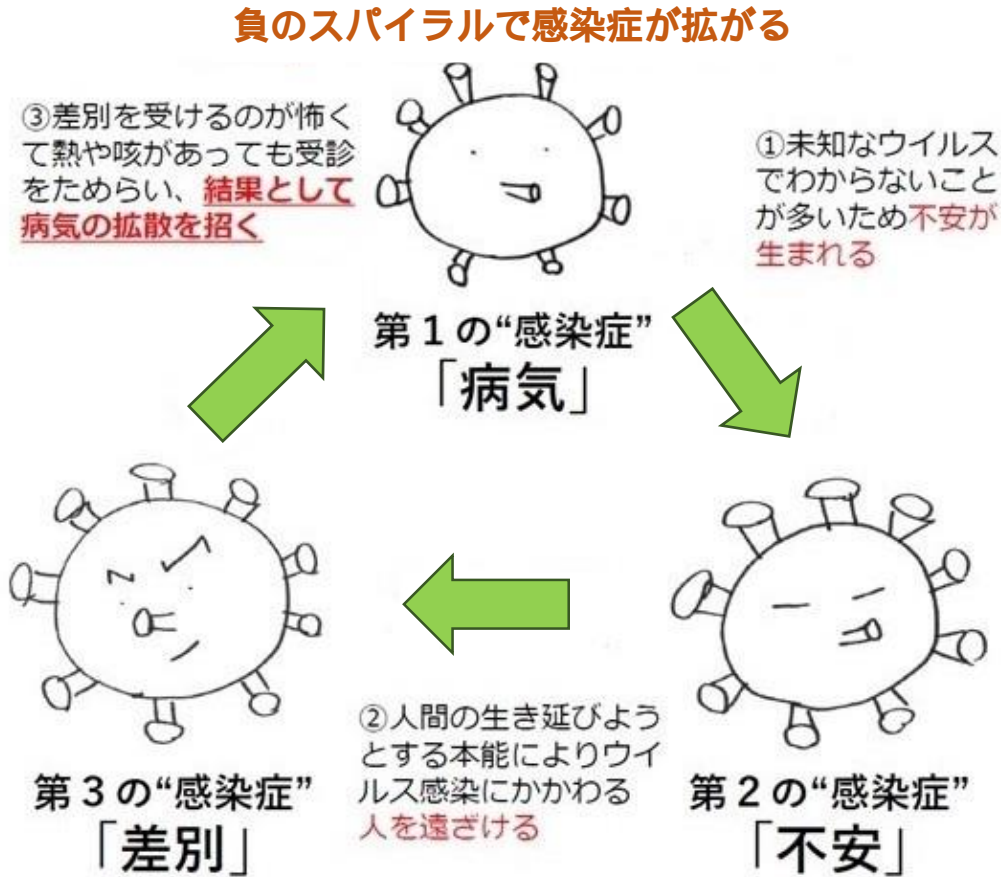
「ストレスが多くなった感じがする」

「学校で部活動ができなくなった」



日本赤十字社のガイドでは、
新型コロナウイルスの怖さについて
「病気」「不安」「差別」の3つの顔が
つながり生活に影響を及ぼすとし
ています。

3つの“感染症”は どうつながっているの？



この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることで。

引用：日本赤十字社『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～』

“新しい顔”にかえていこう！

私たちの生活に影響を与えている新型コロナウイルスの3つの顔をどのよう
に変えていけばよいのでしょうか。

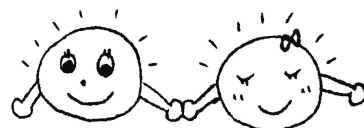
第1の“顔”
「健康」



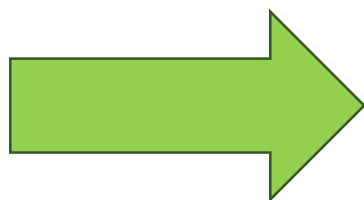
第2の“顔”
「安心」



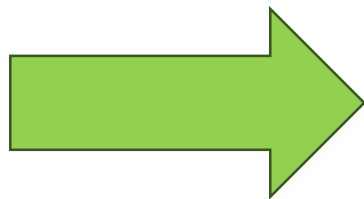
第3の“顔”
「共生」



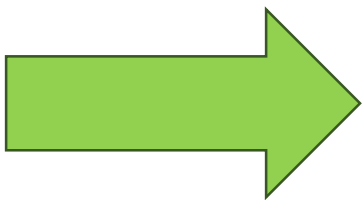
第1の“感染症”
「病気」



第2の“感染症”
「不安」



第3の“感染症”
「差別」



“新しい顔”は

どんな関係にあるの？

こころもからだも元気でいるために自分のことも、周りの人のことも大切に**思いやり**の気持ちをもつ

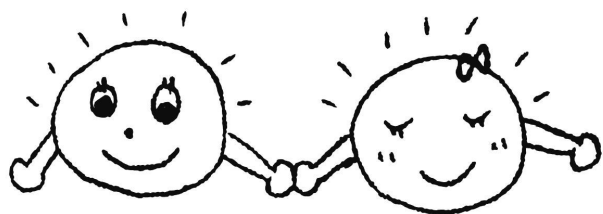


第2の“顔”
「安心」



第1の“顔”
「健康」

ひとりにならないで
いろんな人と**つながる**



第3の“顔”
「共生」

たくさんの人とつながって、**支えあう**ことでこころもからだも、みんなが元気になる

”新しい顔に

変えるために、

私たちはどのようなことが

できるのでしょうか？



「手洗い、うがい」

「三密を避ける」

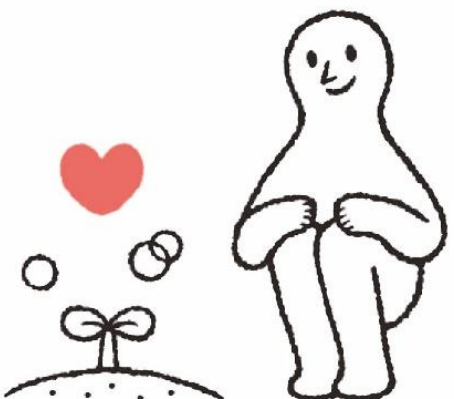
「正しい情報や知識を知る」

など 自分が新型コロナウイルスに
感染しないよう また周りの人たち
のことも考えた行動をしましょう。



一人ひとりが心がけることで

「健康」になっていきます



あなたの周りの人がどんな気持ちで
過ごしているのかを考えることは

思いやりの力

を高めることにつながります。
相手の話をきいたり、一緒に寄りそう
こと 相手の立場 気持ち想像する
ことも思いやりの力を強めます。



思いやることで

「安心」が生まれます



思いやりの力を高める



あなたの気持ちを考えてみましょう

もしあなたが感染してしまったとき、

周りの人に言われたらかなしい言葉は

なんでしょう？

反対に言ってもらったらうれしい言葉

はなんでしょう？

かなしい言葉

うれしい言葉



思いやりの力を高める



新型コロナウイルスに感染してしまった
患者さんや家族、患者さんを支えている
医療や福祉の現場の人の気持ちを考えて
みましょう。

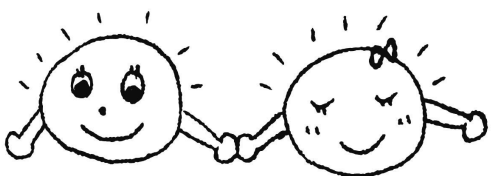
患者さんの気持ち

患者さんの家族の気持ち

患者さんを支えている医療 福祉現場の人の気持ち

家族や友達 周りの人を 思いやり、
相手の立場に立って考えることで、
自分も相手も安心して話ができるよう
になります。
その時 じっくりしゃべって話をしたらいいので
しょう。つながるって話すっていいよ、
そのための工夫を考えてみましょう。
そのことで、

つながる力がついてきます。

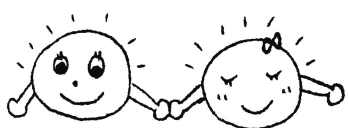


つながるって

「共生」(共に生きていく)

が実現します。

つながる力を高める



まずは自分をみつめてみましょう。

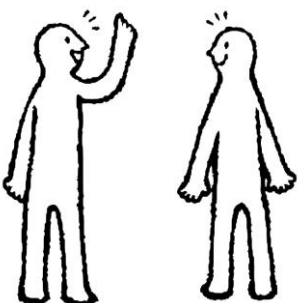
ひとりで過ごしている時に困ったことがあったり、「一人で悩んでしまったらどうしたらいいの？」と。



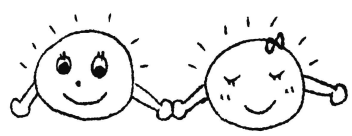
「ひとりぼっちにならない」

こまったことがあったら誰かに

その気持ちを伝えることも大切です。



つながる力を高める



あなたの家族のことを考えてみましょう。

新型コロナウイルスの感染が広がるなかで家族（親きょうだい 祖父母など）や身近な人はどのように過ごしていましたか？

離れていたところで住んでいる家族の様子はどうですか。

つながる力を高める

「いろいろな立場の人の

様子や意見を知ろう」



新型コロナウイルスの影響で生活はどう変わった？
どんな気持ちだった？

がんばったこと

困ったこと・苦労したこと

うれしかったこと

障害のある人や一人暮らし高齢者に
実際に話を聞いてみるのもいいかもしれません



つながる力を高める



毎朝登校時にいつもあいさつを交わしていたおばあさん。
新型コロナウイルスの感染が広がってから見かけなくなっていました。
このおばあさんのことが心配です。

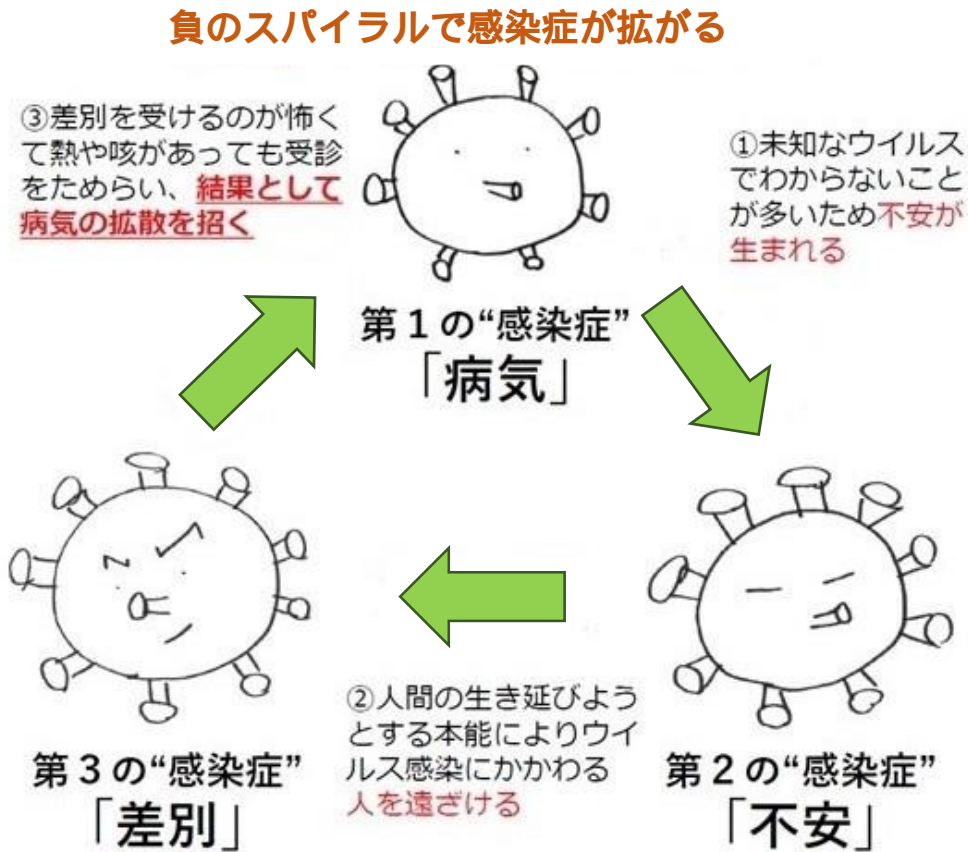
「おばあさんが外出できなくなった原因はどんなことが考えられますか」

「おばあさんと連絡をとるためにどんな工夫が考えられますか」

「地域のなかで他に心配な人たちはいますか」

日本赤十字社のガイドでは「病気が不安を呼び、不安は差別を生む」としています。実際に地域のなかでは、偏見や差別が起こっています。みなさんの周りで心配なことはありませんか。

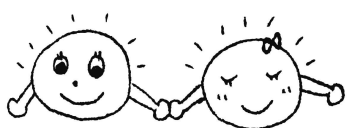
3つの“感染症”は どうつながっているの？



この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることです。

引用：日本赤十字社『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～』

「差別」の顔を見つめる



新型コロナウイルスの感染が広がった
ことで、人と人のつながりが弱くなりま
した。

いろいろな場面で、不安や恐れから、
自分のことだけを考え、知らないうち
にあの人はこうだと勝手に決めつける
「偏見」がうまれます。

そのことが悪いことだとして一方的に
傷つけてしまう「差別」につながって
いきます。

ハンセン病問題から学ぶ



日本では 今から約90年前

「ハンセン病」

という感染症の患者への理不尽な偏見や差別が起こりました。

ハンセン病問題から 現在の私たちが
学ぶべき教訓がたくさんあります。

ハンセン病問題から学ぶ

今からおおよそ90年前（1930年頃）、日本は全てのハンセン病の患者（かんじや）さんを療養所（りようようじよ）へ閉じ込めてしまふことにしました（絶対（ぜったい）隔離（かくり））。いったん療養所に入れられた患者さんは、死ぬまで外に出られず、家にも帰れないようにしたのです（終生（しゅうせい）隔離（かくり））。

患者さんを療養所に閉じ込めたのは、ハンセン病が人から人へうつる病気だと分かったため、他の人にうつさないようにすることが目的でした。でも本当は、そんなにうつりやすい病気ではありませんでした（1947年には治療（ちりよう）薬（やく）が登場）。間違った知識やうわさが広まり、近所に感染が知られると、本人だけでなく家族も偏見や差別の対象にされました。

【ハンセン病とは】

「らい菌（きん）」に感染することで起こる病気。発病すると手足などの神経が麻ひしたり、皮ふに病的変化が起こる。

子どもがハンセン病にかかると「もう学校へ来なくてよい。」と言われたり、これまで仲の良かった友達が突然遊んでくれなくなったりしました。子どもであっても親や兄弟と別れ、ひとりで一生療養所に入所しなければなりませんでした。

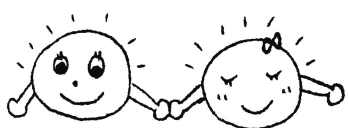
弟が学校から泣きながらもどってきたので「どうしたの。」と聞くと、泣き声で、「学校で遊んでいると『お前の兄さんは手が曲がっつるげなね、お前とはもう遊ばんけんあっちへゆけ。』と同級生に言われたのでもどってきた。」というのでした。ああ、その時はぼくもぎよっとしました。なぜこんな小さい弟にまでつらい思いをさせなければならぬのか、それはぼくが生きているからではなかるうか。そうだ、もう死ぬより仕方がないのでした（檜垣政市「生死と病気」より）

【参考】・「ハンセン病の向こう側」厚生労働省

・「小学生のみなさんへ：かんたん解説」国立ハンセン病資料館

・「ちぎられた心を抱いて」国立ハンセン病資料館

ハンセン病問題から学ぶ



「手が曲がっとなるげなね、

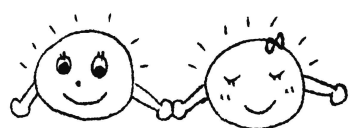
もうお前とは遊ばん。

あっちへゆけ。」

この言葉には 嫌悪 偏見 差別の気持ち
が入り混じっています。

なぜこんな気持ちになってしまったので
しょうか？

ハンセン病問題から学ぶ



過去のハンセン病問題から私たちが
学ぶ教訓はどんなことでしょうか？
考えてみましょう。





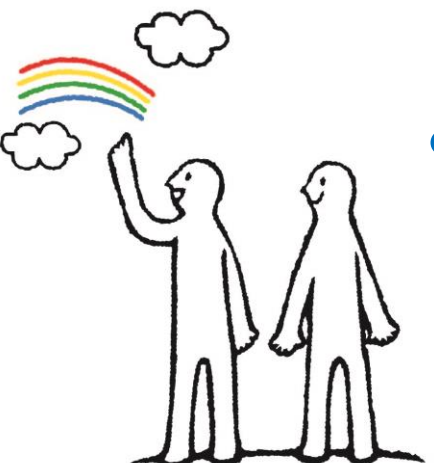
支えあう力を高める

「偏見や「差別」を生み出さないためには、
いろいろな人のことを「思いやる」こと。
その人たちと「つながろう」とすること。
そのことによって、少し勇気が出てきます。

ひとりぼっちにならない。
ひとりぼっちにさせない。

支えあう力を

高めてみましょう。





支えあう力を高める

あなたの友達のお父さんは老人ホームで働いています。

別の友達がその子に「新型コロナウイルスにかかってるんじゃないの」と言いました。

あなたはどっしりう気持ちになりますか？

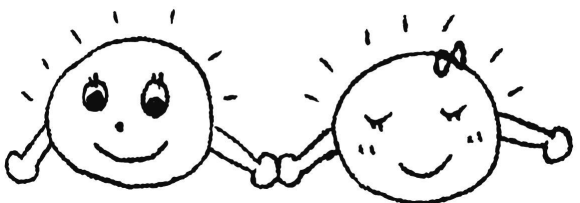
どのように対応したらいいと思いますか？

自分の周りの人とつながること、
私たちは一人ではないことを実感します。

自分のことだけを考え、不安や恐れから
誰かを差別するのではなく、
ひとりぼっちにならないで
誰かと一緒に生きること。

支えあう力

が健康につながります。



支えあう力を高める



「いろいろな立場の人の

様子や意見を知ろう」

新型コロナウイルスの影響で生活はどう変わった？
どんな気持ちだった？

がんばったこと

困ったこと・苦労したこと

うれしかったこと

医療現場の方や福祉関係者 感染した人や
家族に実際に話を聞いてみてもいいですね



相手を差別をするのではなく

相手を

思いやり

つながり

支えあっている中で

「健康」「安心」「共生」へ

生まれかわり、

やさしさが広がっていきます

「健康とは単に病気や虚弱でないというだけでなく、肉体的、精神的、社会的に調和のとれた良い状態にあることをいいます。」

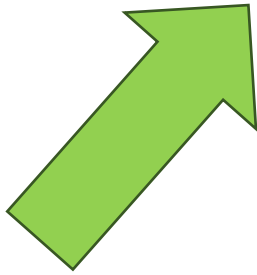
「支え合うこと（共生）は、地域社会を「健康にし、人のつながりを生みだします。」

その力は、一人ひとりの健康を高めるだけでなく、地域全体を元気にし、みんなを健康にすることにつながります。」

「共生」によって、みんなの「健康」が生まれます。」

“やさしさ”がひろがる (やさしさの連鎖)

たくさんの人とつながって、**支えあう**ことで心もからだも、みんなが元気になる



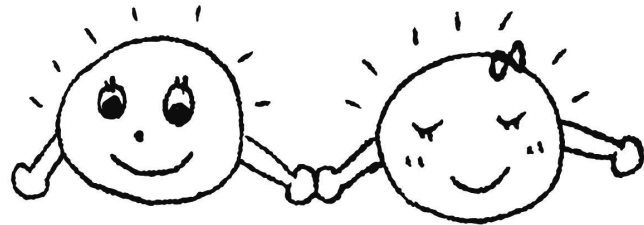
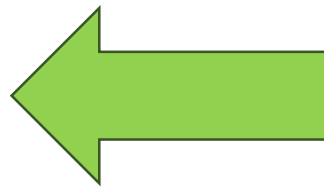
第1の“顔”
「健康」

心もからだも元気であるために自分のことも、周りの人のことも大切に**思いやり**の気持ちをもつ



第2の“顔”
「安心」

ひとりにならないで、いろんな人と**つながる**



第3の“顔”
「共生」

“せむじむ”をひろげよう

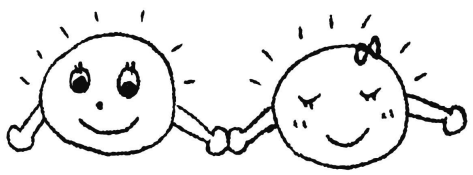
やさしさをひろげて



いくために

あなたの周りにいる人はどんな気持ちで毎日過ごしているでしょうか。

- あなたの家族やお友達
- 一人で暮らしているお年寄り
- 小さな子どもがいる両親



- 多くのお客さんと接するお仕事をしている人

- 福祉施設や病院で働いている人
- 治療のために入院している人

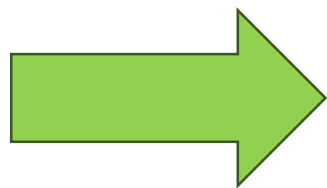


私たちのなかにやさしさを広げることが
やさしいまちをつくることにつながります。

あなたができることは
なんですか？



第1の“顔”
「健康」



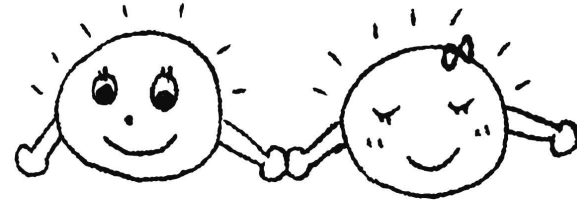
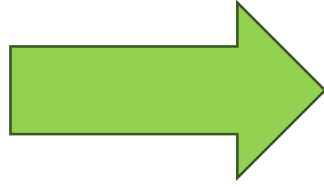
第2の“顔”
「安心」

あなたの考え

思いやりの力をつけるため
にはどうすればいいの？



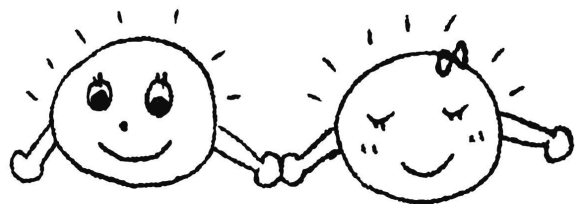
第2の“顔”
「安心」



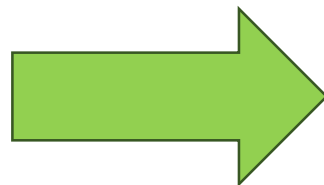
第3の“顔”
「共生」

あなたの考え

つながる力をつけるために
はどうすればいいの？



第3の“顔”
「共生」



第1の“顔”
「健康」

あなたの考え

支えあう力をつけるために
はじむすねばいいの？

このワークシートは日本赤十字社による

『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう』をもとに、
全国社会福祉協議会が制作しました。

【福祉教育推進委員会】（敬称略）

原田正樹（日本福祉大学 副学長）

中島 修（文京学院大学 教授）

福澤信輔（長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター主任）

野川すみれ（愛知県 名古屋市港区社会福祉協議会 事務局次長）

安河内達（福岡県 社会福祉法人三活会 緑の里 施設長）

坂本晃一（東京都 墨田区立菊川小学校 主任教諭）

牧野郁子（埼玉県 鶴ヶ島市社会福祉協議会）

櫻田賢治（宮崎県 都城市社会福祉協議会 地域福祉課長）

梶野光信（東京都 教育庁 地域教育支援部 主任社会教育主事）

小林美保（文部科学省 総合教育政策局障害者学習支援推進室長）

玉置隼人（厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 地域福祉専門官）